



河海抄

柏木
横
菅
出
十
田

八利/2
1272
14





何れも 才十

中女一物表

春名

六位上御膳博士権左大臣



右の如くは... 御膳博士権左大臣

乃ら... 御膳博士権左大臣

... 御膳博士権左大臣

... 御膳博士権左大臣

... 御膳博士権左大臣



12
1272
14

河海抄卷第十

才女一柏木

巻名

正六位上物語博士源雅良撰



柏木に葉もみみとゆきとよみ今かよふ當に柏
右邊乃心むれお

ふくむのせの中とゆきし

にふくむ乃心身ろくろは地へはなむかきと指つる

乃ふあであく終むしらのとよめはしるく

古今 今昔に世をいふしんや地に色もはゆきとる

古今 心ちくく世よふ乃あつれん終むしる世とあふ

日 世のなつらんあはれつしんあふおはし成るれ

拾遺 乃のしあつらんあはれつしんあふおはし成るれ

女終むのせ乃心むれお

六帖 小部 新奥入
うき世よんよめあふくろあやのせれねるうき
年利なりをりしむるまろしめし

古分
友去乃身とつらにほととむる思よわて成る
枕色うねりころり

古分
海川枕なるあつた縁めあはるしゆいふ人よあはる
海いそりし糖色いとほれあはる思乃ちあはるん

いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん
いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん

いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん
いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん

いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん
いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん

いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん
いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん

いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん
いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん

いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん
いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん

いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん
いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん

いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん
いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん

いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん
いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん

いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん
いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん

わねはるあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん



Y

いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん
いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん

いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん
いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん

いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん
いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん

いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん
いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん

いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん
いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん

いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん
いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん

いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん
いとほれあはるん糖色いとほれあはる思乃ちあはるん

まいつる海人

ゆついでにほくぬきくはしていかにあつた也
そついにいよ 改題

ころに志す人よるいよるあつた

おれ 枕の地 経より法佛既離代枕のより喜蔭丈
ていよる枕をよめられた也

あつたといよる人のいよるをよめられたる
むらむらじつに世あをりてまのありたり

伊勢物語の如くは 水尾帝 のころは 業平

とある一つうては 業平 のころは 業平

あつたといよる 業平 のころは 業平

ゆついでにほくぬきくはしていかにあつた也

後乃前におわくはありふいよるいよる

伊勢物語

思ふよりあつた 業平 のころは 業平

無儀あつた 業平 のころは 業平

かつたあつた 業平 のころは 業平

ふらふら 業平 のころは 業平

いよるいよる 業平 のころは 業平

あつた 業平 のころは 業平

あつた 業平 のころは 業平

蒼額観念後作文字史記帝より世 純曰
蒼額又取像鳥詠始作文字史下之作蓋
自此始記其言以策之蔵之若曰書換

あつた 業平 のころは 業平

いふる首乃其あくるかゆふとてふあはるんや

日してふくは父母とあはるるにんあはるわんらん
まのしん正朝ふむとてふ住僧しれふともなるり

釈教經云生為伴文其上ノ盧遮那ノ葉中系
上ノ億々の尺迦ハ伴也

これぞあくるむらうのまのしんはとてふらんや

要集云有智之人以智惠力結念地獄物重之業現世
性受惡瘡之人現世性業地獄重文將重性受

れもとてふとてふ

固其長食ある物若菜尾ノ

西慶

あはるくはるる乃乃とてふ庭れり右次はるる

みもはるる文支らるる文司 中文職

りるる けりるる

朱雀院 長下りかたけりるるるるるる

李尸王記云延長八年九月廿八日申刻 法皇御

大納院奉初上先是上詔侍臣令并備法皇

座用大床子二脚踏物上加褥云奉詔法皇欲以

衣傍脇息及倭靈男女割るれは是法皇臨

幸加初奉相似須仕時法皇奉あり

こりからるるるるるるるるるる

古今人乃たわ乃んやとてふるるるるるるるるるる

とてふるるるるるるるるるるるるるるるる

ちぬまきしつくりりりりりりりりりりりりり

驗付 寛平法皇御初奉須

行々々々々々々々

源氏後号は後也。これ属ももあつた。後とともわぬ。
にともとももあつた。女房の目の中もあ
ちいしゅうめりうた。又殿乃らたは物終乃中あも
か屋うた事わら。

まとわいぐうとあつた。こゝに
古今いりうとあつた。後乃らたは物終乃中あも
あつた。人もあつた。

枕わ又志向人もあつた。海をわらとともあつた。
こ乃らたは物終乃中あもあつた。
文息も怨意もあつた。あつた。あつた。
業と乃らたは物終乃中あもあつた。
あつた。あつた。あつた。

榮花物語。小一條院。女御題云乃物をわらとともあつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

榮花物語。粟田殿。御病乃中に。関白もあつた。御
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

きんご思行あまの礼とてつかりとてかみりて
この方に書かすはるるまことまうにの給へるは
とほかとおひきりしるるまことあまの礼とて
とほかとおひきりしるるまことあまの礼とて
かよ不爰まゆりゆり

病中乃仁平臥るる言人の討而る以下
おれり

何れゆり 體 彦

とれゆりとるる色とてももくとて
とれゆりとるる色とてももくとて
とれゆりとるる色とてももくとて
とれゆりとるる色とてももくとて
とれゆりとるる色とてももくとて

礼記、五十指とてつるる指本指大納言今年廿五六

後乃ゆりて地のふり乃目 此賀儀承日あり

いあゆりてきき 禮言

るるる 之論

こ乃ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて 弁辞勅事

ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて

ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて

今日不念死明日不知死何故遺作極根之常

力注也 雷山鳥唱

ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて

ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて

ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて

世皆不軍固如水流泡燭

禮記

あそびにうしろさ

日守村武家 かんしよまをいかにせんしちをき也

法保 仁教備初

あそびにうしろさ あそびにうしろさ

あそびにうしろさ 又肝腹横波眼尾

あそびにうしろさ 又肝腹横波眼尾

あそびにうしろさ 又肝腹横波眼尾

あそびにうしろさ 又肝腹横波眼尾

あそびにうしろさ 又肝腹横波眼尾

五十八翁方有後靜思堪喜亦堪嘆 白乐天

之他徑快勿須思似汝 白乐天

樂天の子らうきる 白乐天

始て男子の誕生 白乐天

生逢ともあはれ 白乐天

六際院の字十八 白乐天

伊行天妙 白乐天

白氏文集 白乐天

と哉 白乐天

あそびにうしろさ 白乐天

あそびにうしろさ 白乐天

あそびにうしろさ 白乐天

あそびにうしろさ 白乐天

あそびにうしろさ 白乐天

あそびにうしろさ 白乐天

あそびにうしろさ 白乐天

あそびにうしろさ 白乐天

あそびにうしろさ 白乐天

あそびにうしろさ 白乐天

あそびにうしろさ 白乐天

あそびにうしろさ 白乐天

古今 物等故の野へ乃橋へへわらへてつる事候よし

あはれいこととくちとゆめ

古し 夫れは我乃威ありなうてあはれいといふ命ありなり

い妻の柳はみろはけはめく候お我乃乃乃橋へて

古今 夫れは乃乃ては白鳥とをめしめたり妻の柳

しりはれとてさうさうそとめり我乃乃乃柳

此乃乃乃乃乃色あはははははは

孝経曰孝子之喪親也父母後所喪居憂 尖希依礼

已言 斬妻之喪其拜若往而不及之依遠餘音也喪事無常

親の喪よ加へてはくもこといへりといへ

い前所後相違乃款下りやつていりといへり

一義云詩は夫と云く之桑文乃六桑院よ對面の

時と大徳なりといへりはめりといへり女文乃孝春

乃何れもは時いける事とやつていりといへり

いへりははははははははははははははははは

北とあはははははははははははははははは

よと文よりいへり

又言はははははははははははははははは

これいひの志ははははははははははははは

いへりはははははははははははははははは

いへりはははははははははははははははは

いへりはははははははははははははははは

いへりはははははははははははははははは

いへりはははははははははははははははは

いへりはははははははははははははははは

心秋思

古今有脚
秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも
伊予屋 幸 也

かきみ乃つま 行秋

心秋思の思ふに野の思ふも
秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも
秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも

心秋思の思ふに野の思ふも

秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも

秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも

秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも

秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも

秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも

秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも

秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも

秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも

秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも

秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも

秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも

秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも

秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも

秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも

秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも

秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも

秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも

秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも

秋の思ふ一しつ 萬古の思ふに野の思ふも

華宮より被詠乃下白雲江湖濤例僧より
 寺に似たり中多と句を宗守と通じり不
 可勝斗

わ~~~~~ぬん 悟 アタラシ

第廿二 横笛

卷名

りをゆえ乃志~~~~~はらりかむいしりかむそつて
 れらり乃らふ又~~~~~行あ~~~~~百あ~~~~~る
 せさを冷けり

李ア己託云天慶十年二月十九日八誦結死
太曾大后四柏友 役は死八誦 余入平時夕誦也余旣侃誦酒布百

端南竹沙金百も納福稿壺一口水誦ノ

董大ゆ乃~~~~~拍末大納云乃追若と列~~~~

山乃~~~~~二文もか~~~~~人~~~~~るや~~~~~

朱雀院 二文 唐葉文

み~~~~~ゆ~~~~~ら~~~~~ゆ~~~~~ぬ~~~~~つ~~~~~る~~~~~
 ね~~~~~乃~~~~~ゆ~~~~~れ~~~~~ゆ~~~~~り~~~~~と~~~~~る~~~~~ゆ~~~~~り~~~~~

此方くいあはれぬれくましくあつた始

弱泉上山遠看筆お林達 良文集

大官日記云延長六年亭子院しりたうあそよあ

禊湯より使りぬゆつり神りれ久らた行

送筆末抽鳴凡管盤根繞院外龍文 朗詠

冷泉院へゆつりあそよあつり勢行やてぬと行

なり 院山院の製

世乃中にあつりいもた行のこいこつこよしたて

いぬ 冷泉院の製

とよへつり竹乃よりいこへてをい世とぬるん

妻抱へよりかりりんにつらけく志くゆかりぬも

よゆきあつりこころあふりしりてくこいりぬと

ゆつりこころいぬ 賀朝法師 延元比 定教の導師

まへに我よりとあゆりしゆつりあつりあつりあ

ぬ 一人あつり

妻は野はあつりぬるあつりあつりあつりあ

いづれあつりあつりあつりあつりあつりあ

地藏本執経曰又子至親波路各別縁書お建

止月代受

いづれあつりあつりあつりあ

壘正子 又樞子 和名壘子 月上 壘正 音雷 又作雷 王壘正 寢仙

こころあつりあつりあつりあつりあつりあ

やうあつりあつりあつりあつりあつりあ

漆螺鈿板也菓子れととる也内院祭納之

約金壘正とあつり酒樽也いづれ礼記山壘

其歌似壘一辨別る遠く力雲雷之歌也

韓詩云天子之玉飾後使大夫皆以黃金木以梓是
木皆酒器也故云我朝模此散矣

多うあつらひららんとあそ
拾遺十九

あつらひららんとあそむるに
あつらひららんとあそむるに

うれせぬあつらひららんとあそむるに
拾遺

世乃中にあつらひららんとあそむるに
拾遺

いとぞうもつらうらわらんとあそむるに

はららもつらうらわらんとあそむるに

りつらとつらうらわらんとあそむるに

揚柳と白文とりもつらうらわらんとあそむるに

うれせぬあつらひららんとあそむるに

いふわくもつらうらわらんとあそむるに

いふわくもつらうらわらんとあそむるに

いふわくもつらうらわらんとあそむるに

いふわくもつらうらわらんとあそむるに

ゆふ乃つらうらわらんとあそむるに

屢眉 也思ふはれねたあつらひららんとあそむるに

もふ乃つらうらわらんとあそむるに

まふ乃つらうらわらんとあそむるに

うれせぬあつらひららんとあそむるに

いふわくもつらうらわらんとあそむるに
古形

秋乃夕れ地あつらひららんとあそむるに

まふ乃つらうらわらんとあそむるに
拾遺

あつらひららんとあそむるに

あつらひららんとあそむるに
貴

あつらひららんとあそむるに

あつらひららんとあそむるに
多集 百葉

あつらひららんとあそむるに
清 月 上

くはきあらしむもいづれも

古今

白雪かゝるらうがを宿敷くもあは秋乃敷月
秋乃つゞきあはるる今昔いづれもいづれも
せうきんくもあはるらうにいさあはる

いづれもいづれもあはるらうにいさあはる

いづれもいづれもあはるらうにいさあはる

平調

ことりいづれもあはるらうにいさあはる

あはるらうにいさあはるらうにいさあはる

あはるらうにいさあはるらうにいさあはる

あはるらうにいさあはるらうにいさあはる

あはるらうにいさあはるらうにいさあはる

あはるらうにいさあはるらうにいさあはる

あはるらうにいさあはるらうにいさあはる

あはるらうにいさあはるらうにいさあはる

あはるらうにいさあはるらうにいさあはる

あはるらうにいさあはるらうにいさあはる

あはるらうにいさあはるらうにいさあはる

あはるらうにいさあはるらうにいさあはる

横筆一筆 天地秋

あはるらうにいさあはるらうにいさあはる

あはるらうにいさあはるらうにいさあはる

あはるらうにいさあはるらうにいさあはる

あはるらうにいさあはるらうにいさあはる

あはるらうにいさあはるらうにいさあはる

あはるらうにいさあはるらうにいさあはる

あはるらうにいさあはるらうにいさあはる

ふかありていしう人なりふこと
式乃のりて文萩裏事 一物

世式乃文准人平陽成院乃御侍とありけり
子光親と云長親と二平式乃母氏元利親と
母月

友人乃乃御使此人く強管結く不登不才為樂
南院或乃貞保親と奉けし天王縁行く長女

陽成院御守也有之奇平又云此或乃乃文ハ
榎成院文桐臺川事は後と貞保親と擬と方次

か乃力人くらりあてて心こころもいふ
らととら 女乃はく人下りいふなりと
法去人云和愛不須説

女乃はく人くらりと信とら 兒女子や
女乃はく人くらりと信とら 兒女子や

兼録

卷若

これにをて此秋とくくきりあて方と
く家行く及の昔いふと此地とわらう
花机覆縁文鈔目録也

無和元年五月十八日御記曰縁横者墨記足
下机加花文縁覆二と縁地也

法苑乃由々 曼陀羅

百歩書

あはる佛あはる乃わらと乃く
くわらとくまらりゆり

跡隨脇士善菩薩 觀音尊至也

唐太祖文武皇帝為其祖元皇帝元貞皇帝

道梅檀木坐像三軀

延長式五合形再脇作菩薩白檀像一合純

おうたりき 雨伽具 梵流

かうりけいしとわんせうらるるみらとくは流せく

荷葉方 蓮葉は花てゆはけ方とわんせうらるる

密とわんせうらるる抹書乃とくに焼くはけらるる

けりくくくくく

計 又換 金

らん乃をわんせうらるるはけ乃わんせうらるる

らん乃をわんせうらるるはけ乃わんせうらるる

沈頭足机

一説云同帳蓋頭足机と佛の足も裏とくは

じんせうあもりらるるは機乃くくくくく

あては機乃専施所懸らるるくくく佛乃わん

あて同帳の内。機机と兼蓋とくくくく

こやうかうれ人

行善事 見賢愚經云

開白朝座夕座中間結取朝蓋あ座既被行

信之人教或八人式其人

りから乃せりくくくの机乃るくくく

ゆりかせり

一と他中既そゆをくくくは生人各苗米座

案机葉付机同字同行人 五合機

七々々大はく物

七僧法眼 海師 談師 况取 三礼 吹 為 既 堂 達

七信 七信

七信

此記云天德二年六月九日丁丑此日理子内親王御
用物与修于十九日此法事其佛經具及七僧法眼料
物未就給令調備使左女御誦經布施調布二百
端又於約后又六人死於書後

あや乃花にめく 糖 裝束事也

ゆもとく徳也寛 此ゆもとく 古サキ 命古の也

ゆもとく徳也寛 此ゆもとく 古サキ 命古の也

ゆもとく徳也寛 此ゆもとく 古サキ 命古の也

倉范務留く霧初寒江流る立

重冬煙瓦之勢家映ち僧帰 困眠

まよりあわれそつとせつとくあつ海くれん

あわれそつとせつとくあつ海くれん

^{山封} 此ゆもとく徳也寛 此ゆもとく 古サキ 命古の也

持ととくくちとと海乃くつかつ此之際及又たつた

にさかた

今法興田部倉 日本紀

阿とゆ乃人と 河津池大完

くさ乃御り 卓舎

月乃えんあつくちつら

延在河八月十五夜弘法大師の袂嘆て蔵人あはれ

とと月乃宴くゆきり河乃奇拾遺おち者京経信

月と海とん乃いれとく物あはれあつりつりあはれ

あつりあはれあつりあはれあつりあはれあつりあはれ

あつりあはれあつりあはれあつりあはれあつりあはれ

いれとくも月乃宴くゆきり河乃奇拾遺おち者京経信

之五夜中新月色二の里外有人ん 弟天

わつたが月女文をむねうと奇決白紙とあはれ
もや伊勢尺每水魚抄長谷雄々十二也中句と
手裁もや 二巻もや也

わつたが月女文をむねうと奇決白紙とあはれ

敏行作

冷虫は舞ひぬる秋乃野

左大臣 武戸大捕 不入急篇

あつたが月女文をむねうと奇決白紙とあはれ

後作

月影はあつたが月女文をむねうと奇決白紙とあはれ

あつたが月女文をむねうと奇決白紙とあはれ

あつたが月女文をむねうと奇決白紙とあはれ

あつたが月女文をむねうと奇決白紙とあはれ

西文抄之上 鶴志む衣下急下

教養後便不常事

あつたが月女文をむねうと奇決白紙とあはれ

あつたが月女文をむねうと奇決白紙とあはれ

あつたが月女文をむねうと奇決白紙とあはれ

あつたが月女文をむねうと奇決白紙とあはれ

あつたが月女文をむねうと奇決白紙とあはれ

あつたが月女文をむねうと奇決白紙とあはれ

あつたが月女文をむねうと奇決白紙とあはれ

あつたが月女文をむねうと奇決白紙とあはれ

あつたが月女文をむねうと奇決白紙とあはれ

あつたが月女文をむねうと奇決白紙とあはれ

あつたが月女文をむねうと奇決白紙とあはれ

後漢書劉傳才三十九

あつたが月女文をむねうと奇決白紙とあはれ

了々々々々々々々

目連具云摩訶目捷連羅耶那唐云米菽氏
孟蘭盆經云落餓鬼中目連救母生天經云在
大焦熱地獄中二經卷為之目連救母經
大哉目錄也

目連具云摩訶目捷連羅耶那唐云米菽氏
孟蘭盆經云落餓鬼中目連救母生天經云在
大焦熱地獄中二經卷為之目連救母經
大哉目錄也

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、



